

がん免疫療法への取り組みについて

■ がん免疫療法とは

がん細胞を異物と認識して排除しようとする、人が本来持っている免疫反応を亢進させて、がんを治療する方法を、がん免疫療法といいます。がんの標準治療である手術・放射線治療・化学療法(抗がん剤)といった治療法に次ぐ「第4の治療法」として期待されています。

■ 抗PD-1抗体『オプジーボ®点滴静注』を世界に先駆け新発売

2014年9月、根治切除不能な悪性黒色腫の治療薬として、「オプジーボ®点滴静注」を新発売しました。がんを攻撃するリンパ球の働きを抑制するシステムには、PD-1というタンパク質が関与しています。オプジーボはこのPD-1を標的とする治療薬として世界で初めて発売された薬剤であり、PD-1の働きを抑制することで、がん細胞を異物と認識してこれを排除する免疫反応を亢進させることにより、有効性が期待されています。



■ 開発にあたって ————— 取締役 副社長執行役員／開発本部長 栗田 浩

がん免疫療法は世界的に注目されており、この分野における薬剤の開発競争が激化しています。当社は世界に先駆けて抗PD-1抗体の開発に取り組み、がん免疫療法剤開発のトップランナーとして、オプジーボの適応がん腫の拡大を中心に、がん免疫療法の開発に積極的に取り組んでいます。



本年7月には、米国ブリistol・マイヤーズ スクイブ (BMS) 社との戦略的提携契約を拡張しました。日本・韓国・台湾において、オプジーボを中核として、BMS社が開発を進めてきた4つのがん免疫関連化合物について、両社で開発・商業化を進めていきます。この新たな提携により、さまざまながん腫に対して、単剤療法だけでなく併用療法の開発を一層促進することができます。

一日でも早くがん患者さんに新たな治療の選択肢を提供できるよう、オプジーボをはじめ革新的医薬品の開発に邁進します。